

『土芥寇讎記』に求められた君主像

第三班（戴 文捷・綱川 歩美・鈴木 圭吾）

元禄期における文武両道について

—『土芥寇讎記』の作者の視点から—

戴 文捷

一、はじめに

徳川時代は、武家による治世である。元和偃武が実現されてから、武士にとって、如何に戦うよりも如何にして国・藩を治め、政権を維持していくかのほうが最も大きな課題である。一七世紀中葉より、保科・綱吉の文治政治が始まった。武士が治者に成り得たのは、武であるからであるが、文治とは治世者は武よりも文の素質が要請されるということを意味する。従って、この時点から武士は自己の存立根拠を文と武の融合において求めるほかない。ここでは『土芥寇讎記』を通じ、文武両道とは何かについて考察してみたい。

『土芥寇讎記』は元禄三年に書かれた大名評判記である。作者が誰であるか、如何なる目的で編纂されたかは、未だに明確になっていないが、本稿では、大名に対する評価から、作者の評価基準は何に基づいていたか、元禄期に求められていた理想的君主像とは何にかから、当時の人々にとっての文武両道とはどのようなものであるかを探ってみたい。

二、大名の評価基準と理想的君主像

『土芥寇讎記』に記載された大名は二四三名である。これらのデータを一覧にしたのは、表1¹⁾である。

表1は、番号、頁、知行所、石高、領主評価、国状と備考の主に七つのカテゴリーから成る。そのうち領主の評価観点を絞り²⁾、①本文の評価と②筆者の評価(謳歌批評の部分)に分け、それぞれ領

主に対する総合評価、文武両道の状況、性質のデータを統計している。国状は主に仕置きや風俗、経済などを記載する。そして重要だと思われる関連事項は備考に記す。

石高はテキストと実際とは若干異なるので、『藩史大事典』に記載されている当時の実際の石高数を、()で表記する。文武両道の欄の「X」は、文武とも不学を表す。また総合評価、性質は良、悪のほか、善悪をはっきり言えない部分は「普(通)」と表記し、未評価の場合、「未」で記す。良・悪・普・未の評価の後ろに()の部分は、判断の根拠であるか、本文の引用でない場合は、漢字と平仮名の混合表記でテキストの直接引用と区別する。国状、備考欄も同様とする。

上記の表1から、以下六点が言える。

- ① 大名の評価は、家格、石高と関係しない。No.4、No.5、No.15、No.200、No.214、No.9
- ② 総合評価は、親疎関係による依怙鼻肩が見られない。表2「親疎関係と評価の一覧表」を参照する。
- ③ 大名自身の素養や性質は、評価と密接にリンクしている。その中に、文武不両道で性質が良ければ「良」とされる大名、文武両道でも性質が悪ければ「悪」とされる大名と、文武両道且つ性質が良ければ「良」とされる大名がいる。詳しくはカラー色でぬりつぶした所を参照のこと³⁾。
- ④ 武道と武芸を区別していることである。No.22、No.58、No.81
- ⑤ 大名の素質と健康・身体的障害との関係である。No.44、No.52、No.236
- ⑥ (仕置きや勝手に害がなければ) 女色に対する寛容な姿勢である。No.4、No.32、No.77と、No.23、No.62、No.72、No.92 二つのパターンがある。

以上から、元禄期に求められた理想的君主像は、以下四つの要素を備えなければならない。

- ① 文武両道であること。特に武勇・武芸という身体的な武より武道の武を評価される。つまり頭脳の良さが要求される。しかし、利発すぎるのも禁物である。
- ② 性格の良さ。心の優しさ(慈悲)、人柄(淳直・正直・穏和)を重視する。文武不両道でも人徳によって士民の和を保てば良い。
- ③ (上位に対して)奉公を全うし、(下位に対して)士民を哀憐する。
- ④ 健全体(五体満足)でなければならぬ。

三、文武両道とは何か

A. 文武両道の悪大名

大名の評価は、文武両道・性質・哀憐の心と大きく関係していることを明らかにした。特に性質は性格と頭脳に分かれ、性格がよく人徳があれば不学にして文武両道と評される。では、作者がいう文武両道とは具体的にどのようなものであるか。ここでは、文武両道であるにも関わらず、悪大名とされた大名を取り上げることによって、この疑問を解いてみたい。

二四三名の大名において、一八七番井上筑後守源政敵(本文では悪とされるが、謳歌批評では良将とされる為)を除き、文武両道で評価されない大名は全部で一〇名である。評価されない理由(謳歌評説のみ)は、詳しくは以下の通りである。(No.)は番号を示す。

- ① (No.15) 松平長門守大江吉就
 - ・但利発過ギタルハ不ルレ足ト同
 - ・学者ノ行跡ニ非ズ(利徳ヲ考へ、吾ガ理ヲ立テ家臣ノ陳ヲ戻キ、人使ト稠シキ、真実ニ不レ親)
 - ・武ヲ好ムモ実理ニ非ズ
 - ・大名ニ不似合利勘ノ世話、誠ニ利発過テ卑劣之行跡、更ニ学者ノスル所

い非ズ

- ② (No.70) 本多出雲守藤原政利 奥州・岩瀬藩

「本文ニ評判アレバ、不及再評」。以下の引用は本文の評価である。

- ・侍ノ器量ヲ好テ、心ノ善ヲ不レ好。
- ・生得吝嗇ニシテ、利ヲ貪ル志シ深シ。
- ・女色ニ・リ、無量ノ費ヲナシ、酒宴ニ長ジテ、精心ヲトロカス。
- ・家民哀憐ノ志ナク、百姓ヲ苦シム。
- ・侍ノ器量ヲ宗トシテ、其志ヲ撰ザルモ、主将ノ本意トスル所ニ非ズ。

- ③ (No.90) 内藤紀伊守藤原信勝 奥州・棚倉藩

利口ニ任セテ、金言妙句ヲ吐散ラセドモ心ハ各別口ト違ヒ、邪欲ニシテ、民ヲ貪リ、士ヲ奪ト、課役ヲ掛テ、賜置タル知行味ヨク半分取返ス。

- ④ (No.91) 水野右衛門大夫源忠春 参州・岡崎藩

家士ノ役儀モ強ク、民ノ貢租重ク貪リ、困窮セシムト云ハ、更ニ主将学者ノ法ニ非ズ。
利発才智過タル故ニ、吾智悪ニ迷ヒ、高慢ノ心甚ダ多く、辨舌利口ヲ発、人ノ智ヲ見誨ドリ、佗人ノ悪ヲ受ルモ、君子ノ徳ナキ故ナリ。
・学問ヲ鼻ニ当テ、結局人柄悪敷ナル心ヲ不レ学故也。

- ⑤ (No.98) 小出備前守藤原吉之 但馬・出石藩

・猿楽ノ事、勝手不如意タラバ、大方ガ然ルベシ。
・美少人ヲ愛シ、弊多キモ、不可也。
・奢リヲ極メ、金銀ヲ費シ、買掛リ等ヲ不済マサ、町人ニ困窮サセ、家老賄賂ニ辛苦スルヲ不ルレ知モ、道ニ非ズ。
・男色故ニ、出頭人ノ奸曲・邪欲ナルヲ不レ知、迷ヒテ善人也ト思ヒ、渠ガ言語ヲ以、家人ノ善悪ヲ定ル類ハ、学者ニ似タル不学者

- ⑥ (No.99) 津軽越中守藤原信政 奥州・弘前藩

・本文ノ如クナラバ、信政、智ニ似タル愚ト云ベシ。文学有テ、信ナク、

偽多キハ、更ニ学者ノ非ズニ本意ニ一。
 ・此ノ小智・小恵故、二男ヲ以、那須資弘ガ養子トシテ、其ノ家ヲモ断絶ス。…奸智ト利欲ト之道理ヲ忘ル、故也。
 ・家老ニ新参者ヲ取り立、授クルニ大祿ヲ一事モ、遠慮ナシ。世上ノ批判ハ、家二人ナキト見ヘタリト評ス。
 ・玄蕃、奸曲邪智ノ小人也。

⑦

(No.103) 松平遠江守源忠親

信濃・飯山藩

・奥智也。
 ・士民ヲ哀憐ノ沙汰ナキ事、仁之道ナシ。士卒ヲ憐ム、兵法ノ極理ナリ。然ルニ二(文武を指す)トモニ闕タル、主将ノ非ニ本意ニ一。
 ・吝嗇ニシテ、諸事掘出シヲ好ム事、是又、大名ノ氣質ニ非ズ。
 ・記録ヲ好モ、…唯時ノ慰、眠覚ナラバ、不ルレ見ニ同ジカルベシ。

⑧

(No.130) 伊達宮内少輔藤原宗純

伊予・吉田藩

・文武ニ学ブニ似テ、名聞也ト云ヘバ、不学ノ人ニ同クシテ、罪重シ。
 ・女色・男色ニ溺レテ、病ヲ生ジ、弊多ク、勝手不如意トナル。
 ・新参者ヲ挙用ル事、勿論能キ人ナキ故トハ云ナガラ、主将ニ学智ナキ故也。

⑨

(No.164) 本多越前守藤原利長

羽州・村山藩

・生得奸曲
 ・勇智ノ過タルト云事、善人ニ非ズ。
 ・血氣ト奸智ノ過タルハ、取ル所ナシ。
 ・吝嗇ニシテ、算勘長ケ、民ヲ貪リ、士ヲ奪フ。
 ・仏僧ヲ禁ズルモ、新太郎光政ヲ似セ、其ノ名ヲ世上ニ流布セントノ謀リト也。

⑩

(No.187) 一柳土佐守越智末朝

播磨・小野藩

・外ヲ飾リテ、内ニ誠ナキ故也。
 ・血氣盛シニ、慢心多キ人、愁ニ学アル故ニ、其ノ学智ニ誇リテ、結局心根悪クナル事、粗有ル事也。
 ・色欲深キ事、大ヒナル難也。
 ・士卒ニハ稠シク仕置シ、吾身ハ放埒成ルハ、人之思フ所ヲ不知ラ。

・野郎之賤シキヲ以、待トシ、祿ヲ与フル事、評ニ絶タリ。
 ・筋ナキ鬮売之子、節ニ臨ンデ何ノ用ニカ可レ立ツ。

上記の十名が悪将とされる理由は、猿楽や男色・女色好み、人使いが厳しい、勝手不如意などで様々だが、共通して最も重要な理由は三つある。

①士民に対する哀憐がない(七名)

②利発が過ぎる(六名)

③利得を求め過ぎる(五名)

哀憐が有るか否かは、評価基準の重要な根拠の一つであるが、上記の一〇名の中に三名の大名(⑤、⑥、⑧)について哀憐があるか否かについて触れていない。この三名に共通する点は、新参の武士を取り立てることである。津軽信政は、女色や男色好みの「欠点」や勝手不如意などというマイナスな一面がないにも関わらず悪将と酷評された。次において、信政が何故評価されないかを究明することによって、著者の文武のあり方を明らかにしたい。

B、文と武の関係

1. 二つの文武両道観

信政は明暦二年二月から宝永七年一〇月まで弘前藩主として政治活動を行ない、藩政を確立し、後に名君とされた人物である。学問において、山鹿素行に儒学や兵学などを教わり素行の高弟として知られるほかに、吉川惟足に師従し最高の秘伝「四重神籬唯受一人道統極秘伝」を許され、五〇歳に「高照神霊」の零社号を受領したほど神道にも造詣深い。政治において、蝦夷蜂起の無事解決、越後高田領検地役、日光普請役、貞享検地などを次から次へと政治手腕を発揮し、更に新田開発を取り組み、実高が貞享四年に二六万八三一石、元禄七年に二九万六六九九石に昇り(4)、弘前藩史上最高の石高となる。以上の実績を勘案すれば、信政は優れた政治家だと評価すべきであろう。

信政が悪いとされた理由は四つ。①信がなく偽りが多いこと ②那須家養子の事件⁽⁵⁾ ③新参者(素行学の関係者)を家老に抜擢したこと ④悪人玄蕃を家老にしたこと。

信政が信なく偽り多いこととは、具体的に「文学モ修メ、心ヲ正シクスル心学ニ非ズ。外ヲ飾テ無信、武道モ亦、謀計ヲ而已宗トシテ、術ヲ以御老中へ取ニ入ントシ、家士ヲ使フニ計ヲ以テタラシ、更ニ信ナク偽多⁽¹⁾」(本文)、「士卒ヲ使フニ、誠ヲ以スル時ハ、真実和順ス。偽謀リテ、誑⁽²⁾使フ時ハ、一旦ハ実ト思ヘドモ、畢竟其ノ虚頭ハス。故ニ士卒疎ム」ことを指す。つまり、信政は士に対して武の謀略のみ以て接するが故に真実の和順が実現できなかつたと作者は言う。

新参の山鹿高恒(素行の婿養子、後の津軽大学)を家老に抜擢したことと、「古来ノ家老退ク。適其職ニ居ル者モ、有テ如レ無キカ。故ニ家中ニツ二分レ、不レ快カラ」(本文)とあるように、藩内において、素行派と非素行派の二大勢力が対立する状態にあり、和順が失つたことが分かる。

更に「彼ノ山家ト云者、大佞人、口才利発ノ手取者ナル故ニ、能ク信政ヲ誑カシ、偏ニ主君ノ如シ」と、作者が山鹿(学問)を批判する。と同時に信政が素行学に深く信奉していることも読みとれる。

信政は弟の玄蕃と共に素行の門弟で、山鹿流兵学の奥義である大星伝を相伝された。素行学はまさに文武両道を目指す学問であるが、作者の目にはそうでないようであった。

では、作者は文の道、武の道について主に以下のように定義する。

- ① 文ハ理ヲ明ニシテ道ヲ行ヒ、武ハ虚実・変化ヲ能ク察シ謀リレ敵ヲ指ニ揮軍士ヲ一、進退当ルレ度ニ術ヲ武道ト云 (一〇五頁)
- ② 孫・呉・太公望ガ兵術、主将トシテ不レ習ハ、士卒ヲシテ進退度ニ当リ、変化氣ニ応ズルノ術、叶慙カルベシ。文道ヲ不レ学ハ、理ニ昧ク、道ニ違フ事多カラシ (二九八、一九九頁)
- ③ 文武両道トテ、主将ノ専ト玩ブ所也。文ハ政道ノ根本、身心ヲ正シクスルノ習ヒ、武道ハ主将ノ家業、逆徒ヲ拉グノ術也 (四三三頁)

- ④ 文学ナキ故ニ、仁心ナク、人使ヒ不レ宜カラ、武道ナキ故ニ、士卒ヲ愛シ、人和ヲ致スノ法ニ疎シ (四六一頁)
- ⑤ 武道ハ士ヲ懐ケ、人和スルヲ要トス、：文道ハ、朋友ニ交リテ信アルヲ道トス (五九七頁)

作者にとつて、文とは心(五常の理)であり、武とは術(智・謀)である。文武の関係について、作者は次のように認識する。

- ① 人主ト成テハ、文ヲ表トシテ学ヒ、武ヲ裏トシテ習ヒ浮ルヲ本トシ (四〇二頁)
- ② 凡ソ文ヲ前ニシ、武ヲ後ニスルハ、順法也。武ヲ前ニシ、文ヲ後ニスルハ、逆法ナル故ニ、誠ムル事也。況ヤ更ハ文道ヲ学レザルハ、誤リトセン。武モ文ヨリ不レ学トキハ、実理ニ至リ難シ。是兵ハ偽道也ト計心得テ、謀計ヲ以作略スレバ、信ナシ。皆偽リヲ以、宗トス。是道トハ云難シ。兵道ノ実理ト云ハ、平常、信ヲ以、士卒ヲ懐ケ、義ヲ以、士ヲ励シ、礼ヲ以、可キ敬ヲ敬、智ヲ以、人ノ勇臆・強弱・忠不忠・信偽・奸曲・邪正・智愚ヲ目利シ、仁ヲ以、家民ヲ哀憐スルヲ、其道ノ実理トス。是ヲ以、文道根本、武道ハ枝葉也 (三七九頁)

作者は、文武は表裏一体の関係にあるべきだと主張する。具体的にいうと、文武の表裏関係は、文の中に武を取り込むというような表裏(内外)関係である。すなわち作者のいう文武両道は、あくまで文(儒)が武(兵)を先行とするものである。それに対して、信政が深く信奉していた素行学は、文武についてこのように語る。

：此自⁽¹⁾古論⁽²⁾將⁽³⁾者不⁽⁴⁾致⁽⁵⁾疑⁽⁶⁾於文武分途之難⁽⁷⁾合、但致⁽⁸⁾二
大將宰相 於將相調和之難⁽⁹⁾得也、夫文武之説何⁽¹⁰⁾乎、書称文武
吉甫万邦為⁽¹¹⁾憲、文武遂為⁽¹²⁾將家嚆矢⁽¹³⁾矣、嗣後孫子有⁽¹⁴⁾令文
齊⁽¹⁵⁾武之称⁽¹⁶⁾、呉子有⁽¹⁷⁾修⁽¹⁸⁾文治⁽¹⁹⁾武⁽²⁰⁾之教⁽²¹⁾、而⁽²²⁾武植⁽²³⁾文種⁽²⁴⁾、武表文
本⁽²⁵⁾、則尉繚子言⁽²⁶⁾之⁽²⁷⁾、文以附⁽²⁸⁾衆武以威⁽²⁹⁾敵⁽³⁰⁾、則考亭氏言⁽³¹⁾

之、合、数子所、云、乃知、文非、博、輕裘緩帶、投壺、雅歌之名也、必合於武、而後為、実文、武非、下、誇、攻殺擊、刺披、堅執、銳之名也、必合於文、而後為、実武、舍、武言、文、是欲、賦、詩以退、虜、舞、干以解、上、圍、名為、文而実非、文矣、舍、文言、武、是必扛、鼎以称、雄、横、架、以着、勇、名為、武而実非、武矣

右は『武教要録』(6)卷之四「文武」の問いについて素行の答えである。『武教要録』は、『聖教要録』、『武教全書』、『武教本論』等と共に、素行がよく弟子達に講授していた素行学の枢軸たる著作である。ここでは、「舍文言武」も「舍武言文」も片手落ちで、真の文または真の武を實現できないと主張する。文武両道をしなければならぬという文武観は、『土芥寇讎記』の作者のと同じであるがしかし、文と武の関係においては、素行学は「武植文種」、「武表文本」という武の中に文を包み込んでいくような文武両道論を強調する。これは、文に武を引きつけようとする文武両道論と正反対に位置するものである。かかる二つの文武両道観によつて、文(五常・心)と武(智・謀)の調和の程度が異なり、最終的に謀略・謀知についての捉え方が大きく相異なる。

2. 謀略と人和

では、士の手懐ける方法はどこまで信と見るか、どこで「偽謀」と見るかは、まず『土芥寇讎記』の作者から見てみよう。

…戦忠ヲ尽シ先祖ヨリ忠賞ニ与シ食禄ヲ跡目半分宛減少スル事、主将之大木ヒナル不可也。凡ソ君臣之道義ヲ以忠信ヲ旨トス。…諸士ヲ使フニ、法ヲ正シ、専ラニシテ、礼ヲ、賜フルニ恩禄一事モ、無ク親疎好悪之差別、父祖之旧功ヲ及シ子孫賞シレ之ヲ、一人成共無レ恨様ニスルヲ以、主将之法トス (一六八頁)

とあるように「信」は、人と人の関係ではなく、君と士の家との関係を指す。君が士を起用し禄を与える際に、その士の父祖の旧功も配慮しなければならぬ。用士のあり方は、誰一人にも恨まれないことが理想である。それが作者の言う「人和」の境地である。裏を返せば、士或いはその家の旧功を無視する能力主義的な人材起用は、人の恨みを買う信のない行為であると見られる。ところが、信政が信奉する素行学は、作者の儒学的文武両道と反対に、兵学的文武両道を唱えるものである(7)。謀知について、素行

謀知之道、豫謀、常知、広見聞、以二視觀察一索内外、則無レ所レ隠、謀者内密、謀也、知者外見聞而知也、内外謀知、則不レ戰而勝敗明矣、凡主将之道智法、士卒兵衆之用、糧財器物之量、天地之得、能謀而知則不レ惑、夫謀必用上智之人、知必有二遠近候三候二、望有レ地、候有レ時、不レ得レ其法、則不レ成矣、謀二間君臣上下之和一、或以レ官人、或以レ郷人、或以レ間人、或以二間術一、計策・謀書・財祿・賄賂、間人之通レ事、有レ陰書陰符陰言一、約事也、謀間能行、而知レ情則敵国服矣、用間之法有二選人之用一、有二必用之時一、有二必用之処一、有二用間之法一、我詳謀、則外間有二不レ候レ内之制一、知候闕、則外事不レ窺、謀間不レ行、則計策不レ遂、豈内無二上知之士一、外無二視聽之詳一、而軍事成乎、(8)

用士

私云、士ハ匹夫也、将ノ功ヲ成事ハ士卒ノ力ニヨレリ、然モヨク平生是ヲ不養不試不教ハ、命ヲ用ユル事ナシ、良将明主

ハ士ヲ不棄、使知使勇使貪使愚、将ヲエラミ、頭奉行ヲ撰事
士ノ中ヨリス、故ニ用士ヲ要トシテ使無勇怯也、

一可レ試_テ用士_ニ事

言_テ行_ハ内外_ニ動靜_ヲ視觀察

一八徴

問_レ之_ヲ以_テ言_フ、以_テ觀_ス其詳_ヲ、究_レ之_ヲ以_テ辭_ヲ、以_テ觀_ス其變_ヲ、與_レ之
問_テ、以_テ觀_ス其誠_ヲ、明白顧問、以_テ觀_ス其德_ヲ、使_レ之_ヲ以_テ財_ヲ、以_テ
觀_ス其廉_ヲ、試_レ之_ヲ以_テ色_ヲ、以_テ觀_ス其貞_ヲ、告_レ之_ヲ以_テ難_ヲ、以_テ觀_ス其
勇_ヲ、醉_レ之_ヲ以_テ酒_ヲ、以_テ觀_ス其態_ヲ、(9)

(傍線部は筆者注)

と、将の謀略の重要性を説き、謀略・人材選別・勝負(成敗)の三者関係を述べた。素行のいう士を選出するための謀略・策略は、儒教的なものではなく、兵学的な謀といつた意味合いが濃厚である。士の起用は、成敗に関わる大事なことなので、旧功よりも能力によって選考すべきと考えられる。また、素行学において、止む得ざる場合に、「權道」を用いることを認める。

兵者 詭道也者、兵凶器也、天道惡_レ之、不_レ得_レ已_レ而用_レ之、故以_レ 權道為_レ用也、權道者、反_レ 常法、同_レ 常法也、詭詐者、兵家之所_レ不_レ好也、然不_レ得_レ已_レ則用_レ 詭詐、是兵之權道也、(10)

このような謀略のあり方は、作者のいう文武両道とはかなりかけ離れ、仮に結果として成功しても、「詭詐」によるもので、信のある行動と認めがたい。作者から見れば、素行学の謀略は「武モ文ヨリ不_レ学トキハ、実理ニ至_レ難シ。是兵ハ偽道也ト計心得テ、謀計ヲ以_レ作略スレバ、信ナシ」ということになり、ただの奸智・愚智に過ぎない。

信政が実際に藩政展開において人材を起用するあり方は、才能と役割を重視する特徴が見られる(表3)。福井氏が言うような人材起

用の仕方(11)ではなく、家老職にも用人職にも新参の者を投じたが、城代職には一門・重臣以外のものが就任できない。私はこれは旧臣と能吏、家格と藩政のバランスを取るための苦肉の方法と考える。

しかし、禄高は、津軽玄蕃と津軽大学が最も高い。表4は「貞享二年二月調御家中分限帳」により作成された。玄蕃と大学が一門や重臣より一〇〇〇石近く多いという特別な待遇を与えられたことは、周囲の妬み・恨みを買う最大な原因ではなからうか。信政が玄蕃と大学の登用の仕方は、「無_ク親疎好悪之差別」、父祖之旧功ヲ及_シ子孫_ニ賞_シ之_ヲ、¹²という賜禄のあり方に反するものである。津軽大学の起用は、行政能力が評価されるよりも素行の一番弟子のためだと言われる(12)。しかしそれだけではない。藩士の教育を熱心に取り組み、行政能力のある家臣を抜擢する信政の藩政のあり方から、大学が津軽の藩政と直接的な関わりがなくとも、能吏を育てるという間接的な役割を果たすことができると信政が大学を期待していた(13)と推測する。

信政のこのような思惑が藩重臣たちに理解されていなかったようである。桜庭太郎左衛門は宝永七年二月一八日付けの建白書を提出し、領内の困窮と藩士の武士らしさを失っている原因を津軽大学に求めた(14)。これは実際貞享検地以来藩財政の実務を担った武田源左衛門などに対する非難とも理解できる(信政が亡くなった二年後の正徳二年二月に武田父子が切腹を仰せつけられた)。従って、家中の分裂は、素行派・非素行派という見方よりも、行政官吏勢力の台頭と保守勢力の軋轢によるものと考えるべきである。

以上のように、素行学を通して行政能吏を求める信政の用士観と、従来の秩序を重視する作者の用士観は対立するものなので、作者の立場からみれば信政がまさに「信ナク偽多_シ」い悪人であるという結論になるのであろう。

3. 利得と人和

君主の智は、国を治める策略のほかに、富を得るための利得の智

の一面も有する。作者の理想的君主像は、「主将ハ唯才智ヲ内ニシテ、外大様ナルヲヨシトス」(一三三頁)。君主の智の發揮があくまで外(他者との関係)において「大様」なることを前提とする。この「大様」とは、恐らく「淳直」、「寛然」、「寛博」、「悠然」、「柔和」(表1を参照)であるう。

そして心のあり方によって、智は実の智と非実の智に区別される。非実の智(小智・世知便聡の智)は本当の智ではない。儒学の智=仁義の智こそ本当の智である。

凡^レ智ト云ニ、様々ノ差別アリ。仏書ニ云、偏智・権智・小智・世智・便聡ハ非実之智也。：儒之実智ハ、生知之智、仁義之智、知仁之智、舜ノ大智是也(四〇六頁)

智者心ノ発也。智恵ニモ品々アリ。邪智アリ、世知辨智アリ。

此智ハ、善智ニアラザレバ不^レ足^レ用^ルニ。聖人ヲ以第一トス。

縦^レ愚魯短才ノ人モ、学文シテ心ヲ磨^ク時ハ智恵発ス (二五〇頁)

また、作者のいう智は、単なる聡明・頭脳の良さよりも、心を重んじる内面的なものである。智が心の持ち方によって人は利根・利発・利口に分ける。三者の区別について作者は次のように語る。

人ニ利根・利発・利口ノ三ノ品アリ。上部優々ト見テ、才発ノ様ナラネドモ、底心ニ智アテ工夫分別、道ヲ辨、是非分明ニ、理ニ不背、智慧アルヲ利根ト云。是ヲ上トス。次ニ才智ニ見^テテ事々ニ随^ヒ、早速ニ利ノ働、カユキ所へ手ノ行が如ナルヲ、利発ト云。是ハ根ニ入テ深キ智慧ナク、唯当然早速ニ利ノ発シ働^ク故ニ利発ト云。是ハ利根ノ次トス。又利口ト云ハ、差当テ弁説広才ニ、人ニ口ヲ開セ又程ニ口ヲキ、分別才智アル底ノ弁口ナレドモ、物ノ密事相談分別事ニ至テハ、根ニ入タル智慧ハ少モ少モ無^ク、偏ニ願人坊師ノ辻談議説ニ等^シキヲ利口ト云テ、是ヲ利発ノ次トス (一三三頁)

では、利発過ぎることは、どの様な場面を指して言うか。

人ノ発明ト云ニ、品アリ。領知計略ノ利ト成ルヲ、理根過タルト

テ大キニ禁ズ。唯常ニ不^レ違ハ、理ヲ明ラメ、有テ^ニ德行、淳直ナルヲ、発シタル智ト云ヘリ(四三三頁)

奸智タル故ニ、義理ヲ闕^ク (二二二頁)

勿論利徳ヲ以、忠トスル儀モ、ナキニハ非ズ。然ドモ家民ヲ貪、

欲ニ義ヲ忘^ルル主君ノ、悪名ヲ世上ニ令^ニ流布セ、人中ノ誹^リニ合ス

ル類^ヒハ、忠ニ似タル不忠、是等ハ小利大損ナリ (二二八頁)。

利発を過ぎる智は、義理を欠いたり・領知計略になつたりして、

邪智や奸智などに変わつてしまふ。利発が過ぎるか否かは、自己の

利得の追求と臣民の利得とのバランス、義理を欠いているか否かに

よつて決まられる。

作者から見れば、信政が次男を養子出したことで那須家が潰され

たので、相手の家を断絶させるまでに自己の利欲を主張する行為で

ある。それは評価されない貪欲で奸智である。

凡^レ仁義ノ心ヲ養フニハ、欲少キヲ善ト。：不仁者ハ、欲深キ

故ニ富リ。去^バトテ、無欲ナル是トスルニハ非ズ (四二二頁)

というように、利得の追求は貪欲となつた時に害(不仁)なるもの

となつてしまふ。利得の追求結果である富の程度が、欲の深さと比

例になる。富めば富む程欲の深いものとされ、不仁と見られ、周囲

の人との和が保てなくなる。富む理由が正当かどうか、要請される

「和」の根拠とは何かについては、作者はあまり追求しないように

見える。

以上のように智の發揮、利の追求の前提条件は、周囲の和を失わ

ないことである。周囲に求められた「和」は、相手の利得(生きる道

を残すという適宜な富み方(自己の利得)によつて実現される。父祖

の旧功を配慮する人材登用の慣行を重視するのも、このような利得

観と大いに関係する。大学や玄蕃へのような破格的な禄の与え方は、

富のバランスを崩し、土に不和をもたらす。

勿論、信政が深く影響を受けた素行学は、義と利の調和をも強調

する。しかし、利を単に人間関係において捉えていない。国家とい

う大きな視野で更に利を理解している。

自らの身を利することを好むは、是れは又天下同様にして、聖人君子は軽重を能く辨ず。軽重と云ふは、君父兄師夫は我がために重し、臣子弟幼婦は我がためかろし、天下国家は身よりも重し、視聽言動は心より軽し。此の軽重を詳に究理するときは、惑ここに止むべし。(15)

明らかにここでいう利の求め方は、自己の悪名を世上に流布するかどうかという次元より、天下国家を視野に入れるスケールの大きいものである。利得には「軽重」≡プライオリティがある。一武士よりも一藩の利益の獲得のほうが優先される。素行学のこのような利得観は、作者には欠けている。那須事件そのものどう見るかはやさして置き、ここで言いたいのは、那須事件に対する作者の信政批判は、素行学的な利得観ではなく、世間的な利得観に由来する。作者の利得観は、功利・能力などと関係なく、家柄・人利などの人間関係や慣行に深くとらわれるもので、ややもすれば平均主義に走るものである。

四、おわりに

以上、元禄に求められていた理想的君主像をみてきた。それは、文武両道と性格のよさが必須条件とする。また、作者の判断基準である文武両道とは何かについても検討した。津軽信政に対する作者の批判を通じて、元禄における二つの文武両道観が存在していることが分かる。一つは『土芥寇讎記』の作者の様な文武両道観である。これは文の中に武を取り込むという文(儒学)優位の文武両道主張である。もう一つは、信政のような素行学的文武両道観である。これは、作者と真っ向から対立するもので、儒学より兵学が先行する。二つの文武両道観の衝突点は、謀略に対する捉え方である。作者にとって、文武両道は単なる知識としての文武ではなく、性格、知謀、利得、和順とも関わる。作者は、既存の社会的慣行の支持者で、「人

和」を無条件に尊重し、兵学的な謀略を「信」のない行為と理解し、能力主義・功利主義に対してやや消極的な見方を持つ。従って、大名に対する評価基準の諸要素の中では、大名の政治実績(能力)・智の程度よりも人格的な要素(性格)が大きなウェイトを占めているように思う。徳川初期において存在していた文武両道に関する二つの見方は、武士の自己確立の思想的葛藤を表出する。それは、天下を取る武士から政治をする武士へ変貌する際に、武士が自らのアイデンティティを確立しようとする過程であり、課題でもある。また、二つの文武両道観は、その後の様に展開していったかについては、今後の課題としたい。同時に本稿に於いて論じなかった信政と素行の文武両道観の相異についても今後考察を加えなければならぬ。

注

- (1) 表1は、一橋大学の綱川歩美氏、鈴木圭吾氏と共同して作られたものである。
- (2) 大名の評価基準として文武の有無と性格が関係していると思われる。
- (3) 網掛け「文武」無したが「良評」／ゴシック「文武両道」だが「悪評」／丸ゴシック「文」○「武」で「悪評」
- (4) 『藩史大事典』第一巻(雄山閣、一九八八年)。
- (5) 旗本家であった那須家は、家綱生母の弟を養子に迎え、那須遠江守資弥として下野烏山二万石の大名となった。その後、実子の一人を増山家へ養子に出し、なお一人の実子福原圖書資寛の存在を隠し、津軽家から次男資徳を養子として迎えたが、福原の訴えによって発覚、貞享四年一〇月一四日に、幕府の親裁によって那須家が潰され、資徳が弘前藩への御預けの処分を受け、父信政も閉門に命じられた。元禄一四年一二月二五日に資徳は采地一〇〇〇石を賜れ、那須家が旗本として復活を遂げたが、大名家として

の再興は最後まで赦されなかった。

(6) 『国民精神文化研究所編『山鹿素行』第二卷所収(目黒書店、一九四三年)、五〇〇頁。

(7) 前田勉「山鹿素行における兵学と儒学の関連―素行学確立以前を中心にして―」(『愛知教育大学研究報告・人文科学編』第四三号、一九九四年)。前田氏は、古学成立以前の素行学が「兵学の内に儒学、なかならず朱子学を包み込もうとする」ものであったが、その後朱子学を批判し、古典儒学を取り入れることによって、兵学的な社会観・人間観を確立したと論じられた。

(8) 『武教本論』(前掲注6所収)、六五〇―六五一頁。

(9) 『武教要録』(前掲注6所収)、五五〇頁。

(10) 『武教要録』(前掲注9参照)、三四五頁。

(11) 福井敏隆「支配機構の一考察―寛文・延宝期を中心として―」(長谷川成一編『津輕藩の基礎的研究』国書刊行会、一九八四年)の注94にて「家老は門閥・譜代重臣が登用された職に対して、用人には行政能力のある者が登用された傾向がうかがえる」と述べた。

(12) 福井前掲論文。

(13) 『信政御意聞伝集』享保二年(国文学研究資料館史料館所蔵・津輕家文書)において、藩士の教育を積極的に取り組んだ信政の事跡が記されている。

(14) 『新編弘前市史』通史編二(近世二)二〇〇二年。

(15) 『山鹿素行全集』思想編・第七卷、「士道」二四頁。

表1

20	189	藤堂和泉守藤原高久	勢州阿濃津	30万 (27万3950)	外様	良(良将)	武	良(士民ヲ深ク哀憐)	良(他将之鑑)	武	良	家士富、庶民安泰	「不学」だが、「当时学者云フ主将ニハカニ越ヘタリ」
21	194	松平淡路守源綱矩	阿波徳島	25万7000	外様	良(善将)	×	良(寛仁)	良(生才ガヲ良ノ将)	×	良(淳直和淳)	風俗善・家士豊・民間最饒	不学ニシテ道ニ叶ハズ
22	197	松平土佐守藤原豊昌	土佐高知	22万600 (17万2600)	外様	良(国ガ豊カ)	武	良(心意淳直)	良(智勇之将)	×	良(慈悲・淳直)	豊・民間最饒	不学ニシテ道ニ叶ハズ
23	199	佐竹右京大夫源義興	出羽秋田	25万5800 (25万5810)	外様	悪(大名之氣性ニ非ズ)	未	悪(吝嗇・卑劣)	悪(吝嗇之将)	×	悪(吝嗇・奸智)	前徳残テ家民安全	武芸でなく、武道を学ばず
24	203	有馬中務大輔源頼元	筑後久留米	21万(20万)	外様	良(政道正シ)	武	良(慈悲深ク)	良(善将)	武	良(慈悲深ク)	家民不苦不楽	家臣に政事任せが良くない
25	207	奥平美作守平昌章	下野宇都宮	9万	譜代	悪	×	悪(奸智)	悪(悪将)	×	悪(仁心ナキ)	勝手不如意	男性女色好きを批判
26	210	大久保加賀守藤原忠朝	相州小田原	10万3000 (10万3129)	譜代	良(政道順)	文武	良(淳直・慈仁)	良(善人ノ善将)	文武	良(実徳深キ)	豊	
27	213	小笠原修理大夫源長胤	豊前中津	8万	譜代	普(父の政道を遵守)	×	良(才智・不吝)	未(不載ハ無評)	×	良(才智・善人)		不学が家臣の責任
28	215	南総大膳大夫源重信	奥州盛岡	10万3000 (10万)	外様	良(徳和ナル将)	×	良(淳直)	良(善将)	×	良(淳直)	家民自カラ心易シ	嫡子の行跡を酷評
29	220	森美作守源長成	美作津山	18万6500	外様	悪(義理闊ク、信ナキ)	×	悪(吝嗇・卑劣)	悪(愚闇之盲将)	×	悪(奸智)	家人立派・民間豊也	
30	222	上杉弾正大弼藤原綱憲	奥州米沢	15万	外様	未(政道家老任セ)	×	良(心意正ク、淳直)	良(善将)	×	悪(不仁)	家人ノ輩ハ心在易シ	家臣ノ威強シ
31	226	榊原虎之助 [源] 勝乗	越後村上	15万	譜代	未(若年)	未	未	未	未	未	家士・民間安平	幼君に利動ノ世話のみ文を勤めない近臣を非色を容認
32	228	松平大和守源ノ直矩	羽州山形	10万	親藩	良(将之威自ラ備ル)	文武	良(寛然、家良ヲ憐ム)	良(善将)	文武	良(淳直)	民ハ豊	
33	233	松平下総守 [源] 忠弘	奥州白川	15万	譜代	悪(闇将)	×	良(淳直)	悪(愚闇之将)	×	良(士卒・民間ヲ哀憐)	諸士・民間心易シ	
34	236	松平隠岐守源貞直	伊予松山	15万	譜代	良(主将器量相備)	文武	良(才智発明)	良(良将)	文武	良(心正)	家民優長也	不学は家臣の責任(謙めなから)
35	238	小笠原遠江守源忠雄	豊前小倉	15万	譜代	良(善将)	×	良(心正直)	良(善将)	×	良(心正直、穩和)	家民優長也	
36	242	酒井左衛門尉源忠直	出羽庄内	14万	譜代	悪	×	悪(奸邪ノ智良)	悪(闇将)	×	未	勝手不如意	ひ隠堀、男色好みと批判
37	248	酒井河内守源忠明	上野厩橋・江州・相州	13万	譜代	良(仕置聊カ非道ナシ)	文武	良(寛然・淳直)	良(良将)	文武	良(寛然・淳直)	勝手吉	
38	251	酒井鞠負在源忠門	若狭小浜	12万3000 (10万3500)	譜代	良(国ガ豊カ)	文武	良(利根・穩和)	良(善人)	文武	良(穩和・慈悲心)	家民心易ク、豊也	文武に心がけの心があるが、罪を究めていない
39	254	本多中務大輔藤原政武	播磨姫路	15万	譜代	悪(仕置ガ悪イ)	×	悪(家民哀憐ノ心ナシ)	未	×	未		
40	256	松平越中守 [源] 定重	勢州桑名	11万	譜代	悪(利根発明過チ害多シ)	×	悪(短気・哀憐ノ心ナク)	悪(血氣ノ暗)	×	悪(仁心ナキ)	勝手不如意	
41	260	丹波若狭守藤原長次	奥州二本松	10万700	外様	普(中抵之人)	×	良(寛然・淳直)	普(善悪定難)	×	悪(慈心ナク)	仕置大抵	
42	261	立花飛騨守源鑑茂	筑後柳川	11万9600 (10万9600)	外様	良(哀憐アル、政道順)	文武	良(士ヲ深ク愛スル心ナキ)	良(良将)	文武	良(邪曲ナク)	士民豊	国語之輩ハ勝手不如意之族多シ
43	264	戸田采女正藤原氏定	美濃大垣	11万 (10万)	譜代	普(仁心ナキ・非道ハナ)	武	普(士ヲ深ク愛スル心ナキ)	普(善将悪性を言ひ難イ)	武	悪(仁愛ガない)	民間不穩	文道ない事、武の穿鑿足りない事、トモルことを三つの難とする以前の非(男色好き)を改めたことを譽める。美少人好きを容認
44	266	本多下野守藤原忠平	和州郡山	12万5000 (11万)	譜代	未	武	良(仁愛之心)	悪(愚将)	武	未	武士之風俗伊達ニ業手ナリ	
45	269	松平大藏太輔菅原利秀	越中富山	10万	外様	良(法ヲ守リ、道ヲ正ス)	文武	良(人使ヒヨシ)	良(善将)	文武	良(家民ヲ哀憐シ)	家民共ニ穩カ	
46	273	水野美作守源勝慶	備後福山	10万	譜代	普	×	悪(已解ナル事多)	普(大抵之将)	×		民間不富不窮	

表 1

47	276	真田伊豆守茲野信房	信州松城	10万	外様	良(法ヲ守リ、家民ヲ哀憐ノ心ヲ下リ)	×	良(寛然)	良(善将)	×	良(寛然)	勝手吉・仕置中抵	
48	278	稲葉丹後守越智正通	越後高田	9万9000 (10万2000)	譜代	善(仁愛ノ心ナキ・非義ノ役儀ヲ悉ク免シケル)	文武	善	善	未	未	家人が綺麗好き、無札	
49	282	牧野駿河守源忠郷	越後長岡	7万4000	譜代	未(仕置家老任せ)	未	未(忠孝・慈悲)	未(再評アルベキ)	未	未	勝手不如意・家老威強	自分で仕置きをすべし 諸役人の奸曲を知るべき
50	285	阿部豊後守正武	武州忍	9万	譜代	良	文武	良(忠孝・慈悲)	良(善人ノ良将)	文武	良(仁愛有)	家中風俗吉	家老奢リテ無札
51	289	阿部对馬守正森	丹後宮津	9万8000 (9万9000)	譜代	悪(政道不直は正義に落ち度ある)	×	善(行跡が正しくもなく悪くもない)	悪(愚将)	×	未	仕置不直・家民共二弱スル者多シ	家老奢リテ無札
52	291	松平伊豆守源信輝	武州川越	7万	譜代	良(善将)	武	良(寛然)	良(善将)	武	良(男官ト是)	勝手ヨシ	耳不自由を難とする
53	295	中川佐渡守源久恒	豊後岡/城	7万4000 (7万440)	外様	善(家民を哀憐しないが、兼しくもな良)	×	悪い(奸智・詔手之アル人)	悪(愚将)	×	悪(詔アリ)	家士ノ風俗不直	女色・猿楽好きなどを批判
54	298	松平飛騨守菅原利明	加州大聖寺	7万	外様	良(国家能ク治ル)	文武	良(行跡悠然)	良(大善将)	文武	良(善行多シ)	政道順	
55	300	本多隠岐守藤原康慶	江州膳所	7万 (6万)	譜代	悪(奸曲・欲深ク・家民ヲ食リ)	×	悪(仁心ナク)	悪(前代未聞之悪主)	×	悪(家民を貪る)	仕置稠シク、家民共貪奪	三代並ビテ悪将タル事、前代未聞也。
56	303	伊達遠江守藤原宗利	伊予宇和島	10万 (7万2147)	外様	善(仁心がなきが、公儀の勤めを怠らな良)	武	悪(妬ム心強シ)	善(善悪を言ひ難い)	武	悪(仁心ナキ武勇)		
57	307	鍋嶋紀伊守藤原直頼	肥前小城	7万4000 (7万3250)	外様	善(道有ル主将)	文	良(行跡寛然)	良(文武両達ノ善将)	文	良(士ヲ愛スル)	政道順	文ノ中ハ武アリ
58	309	水野隼人正源忠直	信州松本	7万	譜代	善(祖父よりいいが、哀憐ノ心ナキ)	×	悪(短慮・仁愛ナク)	善(血氣ノ勇将)	×	悪(短慮・哀憐ナク)	家中武用ヲ嗜	武芸ヲ好ム
59	312	土井閑房守源利益	肥前唐津	7万	譜代	良(博識ク、息節ヲ勵マシト心掛ケル)	×	善(和順ノ心ナク・不義ナシ)	善(血氣ノ勇将)	×	善(邪曲ナク・不義ナク)		
60	316	内藤能登守藤原義孝	奥州岩城	7万	譜代	悪(不義ノ遊賢ニ心ヲ披シ)	×	未	悪(闇将)	×	未		
61	320	松平主殿頭源忠房	肥前島原	6万5900	譜代	良(仁政ヲ施シ)	未(記載なし)	良(淳直・穏順)	良(智勇之将)	未	良(忠義)	風俗落付、民間共二寛也	先祖も忠節を尽くした人が多いことを言及男色や美童好きを戒めるべき。慎めば、善将になれる。
62	324	戸沢能登守平政条	羽州新庄	6万8000 (6万8200)	外様	善(人使ヒ稠シ・非義なし)	×	善(強勇・悪義ナシ)	善	未	善(奸曲嫉妬ナシ)	風俗不直・仕置中抵	
63	327	松浦志岐守源任	肥前平戸	6万1000 (6万1700)	外様	良(仕置宜シク)	文武	良(諸士ヲ哀レシ)	良(良将)	文武	良(智勇発明)	国役少シ、万事勝手ヨシ・家民豊也	
64	330	松平日向守源忠之	下総古河	9万5000 (8万)	譜代	良(公役を立派に勤める)	×	良(利発・才智)	未	未	未	家士ハ富、民間不豊。	
65	331	石川主殿頭源昌勝	山城淀	6万	譜代	良(仕置中ニシテ、非道ナシ)	文	良(柔和・静)	良(善将)	文	良(柔和・静)	家士ハ富、民間不豊。	
66	334	安藤对馬守源重治	上州高崎	6万	譜代	良(家民ヲ哀憐ス)	×	良(柔和)	未	文	良(心意正順)	家士之風俗奢リ・仕置宜シク、民間豊也。	男色・美少男好きは「停止アルベシ」。

表1

67	337	相馬彈正少卿平島胤	奥州中村	6万	外様	良(家民心易)	×	良(才智)	良(善將)	×	良(心淳直)	家土不富。風俗し義を守る。仕置直シク、家民共ニ豊也。	實際は文はあると強調。
68	340	松平丹波守源光永	美濃加納	7万	譜代	良(仁愛ヲ施シ、憐愍深ク)	×	良(心・意直)	良(善將)	×	良(自然ト仁義備ル)		不学ノ道者
69	342	京極備中守源高豊	讃州丸亀	6万3000 (6万1500)	外様	未	文武少々	良(悠然・穩和)	良(善將)	文武少々	良(悠然・穩和)	相撲好きをやめたことを賞賛。家臣の善悪を把握しているのを評価	
70	345	本多出雲守藤原政利	奥州岩瀬	1万	譜代	悪(不仁ノ至リ)	文武二非(実字ニ非ズ)	悪(哀憐ノ心ナキ・吝嗇)	悪(闇將)	未	未	百姓ニ苛政シ・家人多ク嘲ヲ出ス	父親を非難 政道は家老任せで、女色に更けることを批判
71	347	松平源次郎源	志摩鳥羽	6万	譜代	未(幼少)	未	未	未	未	未	家民豊也	
72	349	浅野内匠頭源長矩	播州赤穂	5万3000 (5万)	外様	未(政道は家老任せ)	未	良(智有テ利良)	未(無評)	×	未	家民豊也	
73	351	岡部美濃守藤ノ宣統	泉州岸和田	5万3000	譜代	良(管アル將)	文武少々	悪(仁心ナク)	良(善將)	文武	未	国家豊治	父親とも悪者
74	352	脇坂淡路守藤原安照	播州滝野	5万3000	外様	悪(家士ヲ奪ヒ民ヲ食)	×	悪(淫乱・愚欲之將)	悪(淫乱・愚欲之將)	×	悪(家土を食ル)	家中風俗不宜 民間苦 家中ノ風俗不宜	
75	354	仙石越前守源政明	信州上田	5万8000 (5万8088)	外様	未(行跡分明ニ知難キ)	文武之志	良(悠然)	未(妾細ナラザル故ニ不及)	文武之志	良(悠然)	家土手前富宜 家ノ風俗ハ不	
76	356	伊東出雲守藤原祐実	日向飯肥	5万1000 (5万1080)	外様	普(管モナク誰モナシ)	×	良(心意發明)	普(中ノ善將)	×	未		
77	358	鍋崎摂津守藤原直久	肥前蓮地領	5万2600 (5万2625)	外様	良(家民ヲ憐人)	×	良(淳直・和順)	良(有徳ノ持)	×	良(淳直・和順)	江戸・国共ニ仕置吉・風俗は淳直	女色を許す 淫風を懐むべき、学問を学ぶべし。
78	360	松平周防守源康賢	石見浜田	5万8000 (5万400)	譜代	良(法ヲ守リ道ヲ正ス)	×	良(家民ヲ哀憐)	未	未	未	家土風俗不宜	
79	362	稲葉右京亮越智景通	豊後臼杵	5万6000 (5万60)	外様	良(政道明・士民能治)	×	悪(調強・忿)	良(武將ノ器)	武	未		
80	364	松平若狭守源直明	播州明石	6万	親藩	悪(淫乱・民ヲ貪リ、士ヲ奪フ)	×	悪(血気盛也)	悪(主將ノ器ニ非ズ)	×	悪(仁心カガナイ)	国役強ク、宛行悪シ	父親に似る悪さ
81	366	松平中務太輔源昌勝	越前松岡	5万	親藩	未	×	未	悪(中ノ下ノ將)	×	未	仕置は緩やか。家土ノ風俗ヲ守ル也	武勇だけ。
82	368	秋田信濃守安倍ノ輝季	奥州三春	5万	外様	良(國家ノ仕置ハヨシ)	×	良(才智利発)	未	×	良(生得智了)	家老の仕置大抵	猿樂は度を弁えるべき
83	372	松平豊前守源信茲	丹波篠山	5万	譜代	未	×	未	未	×	未		政道は家老任せ。
84	374	黒田甲斐守源長重	筑前秋月	5万	外様	良(行跡不義)	×	良(悠然)	良(善ナル方也)	×	良(悠然・利発)	民間豊也	執政は家老と合議する。
85	376	浅野式部大輔源長照	備後三好	5万	外様	良(行跡不義)	×	良(穩順・慎深ク)	良(有善將)	文武	良(慎深)	民間不窮	家臣文武有
86	378	藤堂佐渡守藤原高通	伊勢久居	5万	外様	良(行跡不義)	武	良(邪曲疾奸奪民ノ氣ナク)	良(文学ナキ將トハ云難シ懐疑的)	文武	未	民間豊也	文武有と推測
87	380	加藤遠江守藤原泰実	伊予大洲	5万	外様	良(有道ノ將)	文武	良(和淳)	良(良將)	文武	良(淳直)	少シ衰弊又	
88	382	青山下野守豊原忠重	遠江浜松	5万	譜代	悪(中抵ノ惡)	武(少々)	普(武勇ヲ宗トス)	普(中浮羅裏)	武	悪(仁心ナク)	仕置大抵	
89	384	溝口信濃守源宣広	越後新発田	5万	外様	良(行跡寛々トシテ豊也)	文武	良(家民ヲ憐憫ス)	良(善ノ良將)	文武	未	不義ナシ	

表1

90	387	内藤紀伊守藤原信勝	陸奥棚倉	5万	譜代	悪(信ナシ)	文武(心学非)	悪(格・) 普(才智・高慢)	悪(分別スル事更ニ主将ノ法ニ非ズ)	文武	悪(佞奸シキ)	風俗悪ク	最近向上した
91	389	水野右衛門大夫源忠春	参河岡崎	5万5000	譜代	悪(智ノ過タル)	文武	悪(格・) 普(格・)	悪(愚ニ劣ル)	文武	悪(高慢)	民間困窮ス	父親も愚将
92	392	井上中務少輔源正任	常陸笠間	5万	譜代	悪(佞奸邪欲ニシテ士民ヲ奪フ)	×	悪(格・)	悪(愚闇ノ悪将)	×	悪(短慮)	家民共ニ衰	女性ニ耽る
93	396	有馬左衛門佐藤原永純	日向県	5万3000	外様	善(行跡ニサシ) 善ノミ非義ナシ)	×	悪(格・)	悪(文武ヲ学ハサルハ主将心掛ナシ)	×	未	百姓困窮	主君に憤りがあるも、恥じてそれを出さない と推測。
94	398	板倉周防守源重冬	伊勢亀山	5万	譜代	良(行跡静心指美体也)	文武	良(不修不怨)	良(仁将)	文武	良(本文と同)	士民共ニ豊	
95	401	水谷出羽守源勝賢	備前中山	5万	外様	悪(悪名高い父に似る)	武	悪(短慮)	悪(文盲不学・忿カリ)	武	悪(短慮)	家民困窮非	家老の諫言有
96	404	本多飛驒守藤原重益	越前丸岡	5万	譜代	善(行跡淳直ニシテ善モナク非モナシ)	×	善(誓、非ナシ)	普(善之内)	×	悪(佞人)	心易シ	仏道有
97	407	青山播磨守菅原幸明	摂津尼崎	5万5000	譜代	悪(哀憐無)	×	悪(血気盛)	悪(主将ノ法ニ違)	×	悪(哀憐ナク)	奴ト云フ風俗	祖父大善批判
98	410	小出備前守藤原吉之	但馬出石	4万5000	外様	悪(大罪人)	文武(少々)	良(悠然)	悪(愚将トスヘキカ)	文武	悪(奸曲邪悪)	勝手不成	男色過
99	414	津軽越中守藤原信政	陸奥弘前	4万7000 (4万6000)	外様	悪(不学者)	文武(甚ダシ)	悪(發明・奸智)	悪(智ニ似タル愚)	文武	悪(信ナク偽多)	仁義ヲ学フ似者	
100	418	久世出雲守源重之	丹波龜山	5万石	譜代	良(倣改)	×	良(利益)	善(可難失モナシ)	×	良(民ヲ哀ミ人使ビ能)	家士民間豊也	
101	420	土屋相模守源正直	常陸土浦	6万5000石	譜代	良(勇徹ノ良将)	文武	良(正直)	良(良将)	文武	未	勝手ヨシ	父に勝る
102	422	龜井能登守源茲親	石見津和野	4万5000 (4万3000)	外様	良(行跡悪カ普(少年愛の他)悪事モナク無善)	×	良(利益)	悪(闇将)	×	悪(才知トハ云ヒ難シ)	民間モ不穏	家臣の愚・本人の愚
103	424	松平遠江守源忠親	信濃飯山	4万	譜代	良(非道ナシ)	文武(学者ニ非ズ)	悪(格・)	善(善将ニハ善不足)	文武(真実ニ非)	悪(格・)	不富不苦	
104	426	黒田伊勢守源長清	筑前東蓮寺	5万	外様	良(非法ヲ裁許ナカリシ)	文武	良(發明)	良(仁政)	文武	良(發明)	家ノ風俗武勇ヲ嗜法ヲ正シ札儀ヲ宗トス	
105	428	小笠原忠岐守源長治	参河吉田	4万 (4万5000)	譜代	良(仕置モ非義ナシ)	文	良(悠然・和テリ)	良(畢竟善将)	文	良(心性正)	仕置ヨシ	
106	431	松平駿河守源定信	伊予今治	4万 (3万5000)	譜代	良(世ニ隠ナキ将)	文	良(穩順)	良(善将)	文	良(行跡正道正)	ナシ	武道の不足を嘆く
107	432	板倉甲斐守源重長	信濃坂城	3万	譜代	良(正シキ将)	文武	良(柔和)	良(善将)	文武	良(仁愛ヲ備ヘ)	士民共ニ心易	浪人が多い
108	434	松平伊賀守源忠易	武蔵岩槻	4万8000	譜代	良(仕置等順也)	文武(少々)	良(悠然)	良(善将)	文武	良(柔和)	家中民間不窮	
109	436	毛利甲斐守大江綱元	長門長府	5万	外様	未(若年)	×	悪(理根)	未(若年)	×	未(家老共取リ立様ニ随)	民間豊也	
110	437	九鬼長門守藤原副隆	摂津三田	3万6000	外様	良(誓アル将)	文武(少々)	良(柔和)	良(善将)	×	未	家士民間豊也	
111	439	牧野因幡守源富成	丹後田辺	3万5600	譜代	良(行跡悪カラス)	武	悪(仁心少々)	良(今ノ世ノ善将)	武	悪(仁心薄シ)	家民ノ仕置順也	
112	441	太田摂津守源資直	駿河田中	5万1000 (5万)	譜代	良(行跡正シ)	文武	良(發明)	良(今ノ世ノ善将)	文武	悪(仁心薄シ)	国家の仕置宜シ	仁心の薄は文の不足
113	443	永井近江守直只	摂津高槻	3万6000	譜代	良(行跡正シ)	文武	良(發明)	良(善将)	文武	良(發明)	勝手ヨシ	

表1

114	445	井伊伯善守藤原直武	遠江掛川	3万5000	譜代	善(行跡不正而已ニテ悪心モナク)	×	善(天性道楽・柔和)	善(愚闇ノ将トスル上ハ、不足評)	×	善(柔和)	国家ノ仕置不宣	性格のよさだけが取り柄	
115	447	京極甲斐守源高任	但馬豊岡	3万3000	外様	良(不義ナシ)	未	良(寛然・慈悲心有)	良(良将ノ矩)	×	良(実質ノ氣)	未	「実質ノ氣」は慎みの根柢	
116	448	朽木伊予守源植昌	丹波福知山	3万2000	譜代	良(行跡最モ宜シ)	文武	良(才知理弁)	良(可謂良将)	文武	良(善質)	未	将として五つの方ありと酷評	
117	450	松平東市正源直次	豊後杵築	3万3000 (3万2000)	譜代	悪(志緩々)	×	悪(仁心薄ク情ヲ不知)	悪(闇将)	×	未	国家ノ政道綱シ	医学は君主の学ではない	
118	452	諏訪因幡守源忠晴	信濃高崎	3万3000 (3万)	譜代	善(善モナク善モナシ)	文武(医学ヲ好ム)	良(悠々・不忿不負)	良(有道ノ主将)	文武	未	未	飲酒の過を歎息	
119	454	島津式部少輔久寿	日向佐土原	3万7000 (3万70)	外様	良(道アル将)	武	良(穩和・慧義ヲ不現)	良(有道ノ主将)	武	良(柔和)	未	国家民能治ル也	家臣の執政を良とするも領主の力量を懸念
120	456	金森出雲守源頼時	飛騨高山	3万8700 (3万8760)	外様	未(若年)	×	未	悪(智ノ不足)	×	未	国民能治ル	徳行十由緒による絶賛	
121	458	松平左京大夫源頼純	伊予西条	3万	親藩	良(善ノ善将)	文武	良(穩和)	良(善ノ良将)	文武	良(敬順厚・寛然)	未	国民豊カ也	人をからかう癖がある
122	460	永井伊賀守大江尚富	下野烏山	3万	譜代	悪(人使ヒ直シカラズ)	×	良(才知ニ利発)	悪(愚将ノ類)	×	未	民間豊也	若年より家臣が執政し今に至る	
123	461	毛利日向守大江元賢	周防徳山	3万	外様	未(智慧善悪分明ナラズ)	×	未	未(是非評論シ難シ)	×	未	国家共ニ静也		
124	464	松平上野介源近栄	出雲大瀬	2万	親藩	善(行跡静・少理發過)	文武(少々)	良(悠然)	良(善将)	文武	未	国家仕置法ニ叶フ		
125	466	織田伊豆守平信武	大和宇多	3万1000 (2万8200)	外様	普(惠事ナシ)	文武(武法ヲ尊)	良(寛然)	良(善ノ将)	文武	未	国家ノ仕置ヨシ		
126	468	田村右京大夫坂上宗永	陸奥一関	3万	外様	普(守ノミ発又鈍ニモ非ズ又鈍ニモ非ズ又普(家民ヲ憐ムニモ非ズ又普(仁之道ヲ不知)	武(歌学ヲ好)	良(悠然)	善(善悪如何トモ評節セヨ)	武	良(陰氣は)思慮深)	本家能本ノ作法ニ准フ	謳歌評説は「静」は「徳人」の隠れた姿と賞賛	
127	470	細川丹後守源行孝	肥後宇土	3万	外様	普(仁之道ヲ不知)	未	普(發明・悟)	普(善行成スノ謙)	×	普(發明)	家民ノ政道不宣	学のないのを嘆息	
128	472	秋月長門守大藏種政	日向高部	3万	外様	普(行跡不悪)	×(心掛薄シ)	良(發明)	普(善トモ評節セヨ)	×	未	家民ノ政道不宣	色情に溺れ、学知のない愚将	
129	474	堀左京亮藤原直利	越後村松	3万	外様	普(行跡不悪)	×(心掛薄シ)	良(發明)	普(善トモ評節セヨ)	×	良(發明)	未	領主の善政が家臣による妨げを受けている	
130	476	伊達宮内少輔藤原宗純	伊予吉田	3万	外様	悪(魯鈍)	文武(身ノ心学ニ非ズ)	悪(發明ニモ非ズ)	悪(愚闇ノ将)	文武(偽リ飾ルノ科)	悪(恥ヲ不知)	家民ノ仕置不宣		
131	479	小出伊勢守藤原英利	丹波園部	2万5000 (2万9700)	外様	良(善ノ将)	文武	良(柔和)	良(善ノ善将)	文武	良(慈悲哀憐)	国家ノ政道不宣		
132	481	木下肥後守豊臣国定	備中足守	2万5000 (2万5000)	外様	未	×	未	普(文武の無(を)不足ト普(く学ばずしての学者・短慮は学(不足))	×	未	仕置モ亦大抵		
133	483	大村因幡守藤原純長	肥前大村	2万57900	外様	善(礼法ヲ不善)	×	善(才知・短慮)	善(短慮・哀憐ノ心ナシ)	×	未	未		
134	485	九鬼大隈守藤原隆常	丹波篠部	2万	外様	良(善有ル将)	文武(少々)	良(穩和)	良(善有ル将)	文武	未	士民ノ仕置ヨシ		
135	487	土岐伊予守源頼隆	出羽上ノ山	2万5000	譜代	良(行跡寛々トシテ)	文武	良(家民ヲ哀憐)	良(行跡寛々トシテ)	文武	良(仁愛厚シ)	未		

表1

136	490	木下右衛門大夫豊臣俊長	豊後日出	3万	外様	良(行跡静也)	文武	普(サノミ 明二非)	未	文武	良(審リナシ だが、勝手 不如意を不 審)	家ノ風俗、古 様ヲ宗トス	文武があつて行跡静 修身の根本とし、本 文の評価に對して懷疑 的。
137	492	遠藤岩松藤原()	美濃八幡	2万4000	譜代	未(若年)	×	未(若年)	×	文武	未(若年)	家臣政道不宜 シ	家臣の執政を非難 的。
138	494	土井式部少輔源利忠	参河西尾	2万3000	譜代	良(行跡悪カ ラス)	×	良(怒リ實ル 念ナキ)	×	文武	良(才智)	家臣政道不宜 シ	「良」のうちだか文武 の不学が領主として
139	495	小笠原土佐守源貞信	美濃高洲	2万2000 (2万2777)	譜代	悪(殿しい政 道)	×	悪(平生遊樂)	×	文武(備)	悪(仁心ナク)	家臣民不豊	文があつて武がないこ とに不審。
140	499	松平村馬守源昭重	豊後府内	2万2000石	譜代	良(政道順ナ リ)	文	未	未	文武	未	家士・民間豊 也	執政は若年のため家臣 まかせ。
141	502	相良遠江守藤原頼隆	肥後人吉	2万1000石	外様	未(備)	文武	良(智有テ、 家民ヲ憐ム 良(利発・悠 然)	未	文武	良(猶…哀憐 有ベシ)	家民共ニ富豊 也	領主に文武がないの は、家臣の落ち度。
142	504	六郷勝之助藤原政清	出羽本庄	2万400石	外様	未(若年)	×	未(若年)	未	文武	良(「本文に ないが」発 明)	家民ノ仕置順 也	若年の領主を良く支え る臣下を賞賛
143	506	分部隼人正源信政	近江大溝	2万	外様	良(仕置順也)	文武(少々)	未	未	文武	未	国家ノ仕置困 窮	本文自体が当人について で分明でない
144	508	植村出羽守源家政	大和高取	2万5000 (2万500)	譜代	悪(善将ニハ 有ルベカラ ズ)	×	未	×	文武	未	家士ヲ無有シ 家民ヲ患ム	家柄に對する評師とし て「高貴也」
145	511	松平刑部太輔頼元	常陸額	2万	親藩	良(管ノ良将)	文武	良(淳直、寛 然)	良(智仁勇ヲ 兼備タル良 善(善ニモ非 ズ、又悪モナ シ。唯愚ニシ 心能キ主将)	文武	良(内徳実性 良之人)	家士ヲ患ム	父正俊の暗殺の前後で 評師が交わる事に不 審。
146	514	堀田下総守紀正仲	陸奥福島	10万	譜代	悪(主将ノ器 量ナシ)	×	悪(無才知魯 鈍)	×	文武	未(備)	困窮ス	家臣は良だが君主へ文 武を進める必要性有 る。
147	517	土井甲斐守源利治	越前大野	4万	譜代	未(若年)	×	良(利発)	×	文武	良(利発)	家民共ニ心易 シ	家臣は良だが君主へ文 武を進める必要性有 る。
148	519	内藤右近大夫藤原政直	陸奥岩城平	2万	譜代	良(所行聊カ 悪キ事ナシ)	文武	良(寛然・穩 和)	良(可謂良将)	文武	良(天性賢徳 備)	勝手ニヨシ	家臣は良だが君主へ文 武を進める必要性有 る。
149	521	西尾隠岐守源忠成	遠江横須賀	2万5000	譜代	良(行跡法ニ 不背)	×	良(淳直・穩 和)	良(不学ナリ 道ニ叶フ善 也)	×	良(淳直・穩 和)	未	平曲・舞樂は度を弁え る。
150	523	堀美作守菅原親常	信濃飯田	2万	外様	未(若年)	×	良(利発)	未(幼年)	×	良(天性スナ リ)	未	平曲・舞樂は度を弁え る。
151	528	酒井石見守源忠朝	出羽左沢	2万	譜代	悪(無分別)	×	悪(血氣ニシ テ短慮)	悪(主将ノ器 破レタリ)	×	悪(無分別)	仕置困シ過テ 迷惑ス	歌道・書道の嗜み有。 光政の嫡男と比較され 賞賛。
152	530	池田信濃守源政言	備前(備中)新田	2万5000	外様	良(道アル将 也)	文武	良(寛然)	良(管ノ善将)	文武	良(孝敬ヲ專 ラトス)	家士大様也。 民間尤豊也。	歌道・書道の嗜み有。 光政の嫡男と比較され 賞賛。
153	533	毛利駿河守藤原高久	豊後佐伯	2万	外様	未(若年)	未	悪(智不勝、 緩々)	悪(愚闇ノ将)	×(夢ニモ不 知)	悪(勇モナク 義モナシ)	家士高、民間 豊也	歌道・書道の嗜み有。 光政の嫡男と比較され 賞賛。
154	535	三浦志岐守平直次	下野壬生	2万5000	譜代	悪(父に勝る が仁愛無)	×	良(利発)	普(中編将)	×	悪(自勢ニ慕 リ、短慮)	民間不窮。国 家ノ仕置キビ シ。	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年
155	537	増山兵部少輔藤原正弥	常陸下館	2万	譜代	悪(家民不哀 憐)	×	悪(短慮・利 発過)	悪(可謂悪将)	×	悪(自勢ニ慕 リ、短慮)	民間不窮。国 家ノ仕置キビ シ。	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年
156	539	鍋島備前守藤原直条	肥前鹿島	2万	外様	良(管アル将)	文武	良(悠然・孝 敬ヲ専ラ)	良(良将トモ 云フヘシ)	文武	良(悠然・敬 ヲ専ラ)	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年
157	542	松平備前守源隆綱	相模甘繩	2万	譜代	良(管有ル将)	文武	良(発明)	良(管之将也)	文武	良(悠然・敬 ヲ専ラ)	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年	家臣に執政を任すのは 若年とはいえない年

仏法を信仰するのを善
の出所とする。

表1

158	544	安倍攝津守安倍信友	(摂津瓜生)	2万	譜代	良<仁義ある>て民を慰むとある>未<才知は有るが無学、少年愛>良<理智義二ヲ譽テリ>	文武(少シ)	良(淳直・不著)	良(備)	文武	良(淳直・不著)	家民ノ仕置、穩也	善将をあえて評価して名を汚したくないという意向から評価に終一般的評価基準に終始、当人への評価なし。
159	545	石川主水源総茂	伊勢神戸	2万 (1万7000)	譜代	良<行跡に不義はないが、が家臣に奢りがある>普(中抵ト云有リ)	×	良(悠然・愛悌有)	良(先ヅ善将)	×	良(悠然・愛悌有)	家民ノ仕置順也	
160	547	戸田山城守藤原忠昌	下総佐倉	6万5000 (6万1000石)	譜代	良<武強はなで哀憐はな悪(百姓は困窮し、人使いも粗い)>未<悪義はないが武強の性で哀憐はな悪(百姓は困窮し、人使いも粗い)>	文武	良(発明)	未	文武	良(理弁)	未	
161	549	南部遠江守源直政	奥州八戸	2万	外様	良<悠然・愛悌有>	×	良(正路・不著)	悪(善将ニ紛ルハ闇将成ベシ)	×	悪(不著ト云ハ格・)	家民ノ仕置モ大抵也	本文の「不著」を謡歌評説は「格・」と解し、隠居後その行為を改めたとが、時既に遅しと評す。
162	550	土方市正源雄豊	伊勢孤野	1万8000 (1万2000石)	外様	普(中抵ト云有リ)	×	良(智有テ格・)	未	×	悪(不著ト云ハ格・)	家民ノ仕置モ大抵也	本文の「不著」を謡歌評説は「格・」と解し、隠居後その行為を改めたとが、時既に遅しと評す。
163	552	森伯耆守源長武	美作津山の内	2万 (1万5000)	外様	未<悪義はないが武強の性で哀憐はな悪(百姓は困窮し、人使いも粗い)>	未	普(智有テ格・)	未	未	未	家民ノ仕置ハ吉。昔ハ悪カリシ。	領地召上げの後行跡改善の評
164	554	本多越前守藤原利長	出羽村山	1万	譜代	悪(慢心多ク)	文武	悪(慢心多ク)	悪(悪名露顯)	文武(心ヲ不)	悪(好曲・格・)	家民ノ仕置今ハ吉。昔ハ悪カリシ。	領地召上げの後行跡改善の評
165	557	宗対馬守平義真	対馬府中	2万	外様	未	文武	良(発明)	普<哀憐の心は>先ヅ善将・>才知がありなから女色は領主として不可也	文武	悪<才知発明にもかかわらず>甚ク奢リ	家士ノ風俗奢	
166	559	丹羽庄之助源氏音	美濃岩村	1万9000	譜代	未(若年)	×	良(利発二見ル)	未	×	良(利根二見ルハ家相統ノ吉瑞也)	仕置吉、風俗不	
167	561	大関大助丹治	下野黒羽根	1万8000	外様	未(幼稚)	×	良(利根二見ル)	未(幼少)	×	未	家民政道順	
168	563	市橋下総守藤原政信	近江仁正寺	1万7400	外様	未	×	良(淳直)	悪(武ナキ将ヲハ器欠ケタ)	文(和歌)	未	家士豊、民間心易	
169	565	秋元但馬守藤原喬朝	甲斐谷村	2万3000	譜代	良(行跡毛法二叶ヒ士民ヲ哀憐ヌ)	文武	良(寛博)	良(管ノ将)	文武	良(寛博ニシテ才知発明)	民豊	
170	567	阿部伊予守河部正春	下総大多喜	1万6000	譜代	悪(家事ハ夢程ト云事)	×	悪(・智・格・)	悪(無取所)	×	悪(仁愛ノ心無ク)	百姓困窮	
171	570	内田出羽守藤原正泰	下総小見川	1万5000	譜代	良(善人)	×	良(寛然)	良(難ズル所ナシ)	×	良(心根善)		
172	572	細川玄蕃允源興英	下野茂木	1万6000	譜代	悪(仁愛ナクシテ仕置キレ良(行跡道ニ不違)	×	悪(少短慮)	悪(闇将)	×	悪(短慮ニ怨リ多ク)	仕置綱シ	
173	573	池田丹波守源政倫	備前新田	1万5000	外様	良(行跡道ニ不違)	文武	良(孝敬ヲ宗トヌ)	良(管ノ良将)	文武	良(孝敬ヲ専ラトシ)		
174	575	米津出羽守藤原正盛	武蔵久喜	1万2000	譜代	普(悪儀モナシ)	武(少シ)	悪(愚癡)	悪(主将ノ器ニ非ズ)	×	悪(愚癡・不仁)	仕置不	
175	577	保科兵部少輔源正祥	上総小松(他)	1万5000	譜代	悪(主将ノ志ナシ)	×	悪(・智・邪欲甚シ)	悪(大愚ノ大悪人)	×	悪<本文に依拠しまたく良いところがないとする>	仕置悪シ	
176	580	渡辺主殿源基綱	河内大井(和泉柏太)	1万3500	譜代	良(行跡靜ニ柔和也)	×	良(才智利発)	良(善将)	×	未	仕置順路	政道家老

表1

231	686	佐竹壹岐守源義和	出羽秋田の内	2万	外様	良(行跡静)	武	良(生得悠た だし啓盛)	良(大抵ハ悪 ナシ)	武	悪(仁愛ノ心 ナキハ不足)	仕置本家に推 ス	
232	688	関大藏源長原	美作津山の内	2万 (1万8700)	外様	良(行跡不分 明)	×	良(生得才智 を守る)	未	未	未	未	
233	689	森村馬守源長俊	美作津山の内	1万5000	外様	良(悪事ナシ)	×	良(行跡道を 守る)	良(善将)	ナシ(沙汰ナ キコト不垂)	良(孝敬)		
234	690	柳沢出羽守源保明(吉保)	和泉大島(他)	2万2030	譜代	良(善ノ善将)	×	良(忠勤ヲ第 一トシテ仁心 深シ)	良(善ノ善将)	未	未	仕置順	
235	692	本庄因幡守藤原宗資	下野足利	2万	譜代	良(行跡正シ)	文武	良(仁心) 普(理弁・理 強過ル程)	良(善ノ将)	未	未	仕置大抵 家民之仕置順 路也	病氣
236	693	松平安房守源信孝	駿河阿部入	1万	譜代	良(行跡正シ)	文武	良(善ノ善将)	良(善ノ善将)	未	未		
237	695	石川吉十郎源乘紀	信濃小諸	1万 (2万)	譜代	悪(人ニタラ シカサレ、悪 ヲナナラト 主)	×	良(静ニシテ 発明過)	悪(大愚ノ大 悪将)	未	悪(愚ト成ル 者)	民ノ仕置ヨシ	家老が ^s 大悪人
238	697	松平縫殿頭源兼盛	三河大崎	1万6000	譜代	未	未	未	未	未	未		
239	698	本多紀伊守藤原正乗	下総舟戸	1万	譜代	未	未	未	未	未	未		
240	699	堀田伊豆守紀正虎	陸奥福島の内	2万	譜代	未	未	未	未	未	未		
241	700	堀田兵部少輔紀俊安	陸奥福島の内	1万	譜代	未	未	未	未	未	悪(兄弟トモ ニ替不勝)	未	正伸と正虎が ^s 双子。
242	700	松平次郎四郎源(信之)	下総古河の内	1万	譜代	未	未	未	未	未	未		
243	701	松浦織部源昌	肥前平戸の内	1万	外様	未	×	未	悪(評ニタラ ズ)	未	未		職鞠を好む

表2 親疎関係と評価の一覧表

評価 分類	良		普		悪		未	
	①	②	①	②	①	②	①	②
親 藩	9人	11人	2人	1人	3人	3人	2人	1人
16人	56.25%	68.75%	12.50%	6.25%	18.75%	18.75%	12.50%	6.25%
譜 代	53人	48人	12人	13人	31人	27人	19人	27人
115人	46.09%	41.74%	10.43%	11.30%	26.96%	23.48%	16.52%	23.48%
外 様	56人	55人	13人	10人	16人	25人	26人	21人
111人	50.45%	49.55%	11.71%	9.01%	14.41%	22.52%	23.42%	18.92%
合計242 (平均値)	118人	114人	27人	24人	50人	55人	47人	49人
	48.76%	47.11%	11.16%	9.92%	20.66%	22.73%	19.42%	20.25%

表3

時期	人名	信政との関係	家老	城代	用人	素行学派	非素行学派	備考
寛文10年11月15日	大道寺宇左衛門為久	一門(叔父)		○			○	江戸日記より、国日記(12月15日条)より。正保の御家騒動の参加者
寛文10年11月21日	大道寺宇左衛門為久	〃	○				○	
寛文12年12月朔日	進藤庄兵衛正次	重臣・姻戚	○				○	信政の弟平八郎室正次の娘
延宝元年5月	進藤庄兵衛正次	〃		○			○	
延宝3年3月朔日	津軽玄蕃政朝	一門(弟)		○			○	室信政の妹
延宝4年12月9日	森岡主膳元長	一門・姻戚	○				○	御留守中城代
延宝5年3月朔日	津軽玄蕃政朝	一門(弟)		○			○	江戸日記より。素行の甥。
延宝7年11月11日	田村藤太夫	新参		○			○	
延宝7年12月13日	間宮勘右衛門勝安 堀伝左衛門	譜代旧臣 譜代・姻戚		○			○	江戸日記より
延宝8年正月11日	木村奎之助明矩	譜代旧臣		○			○	江戸日記より。父が二代信義に300石で召し抱えられた。
延宝8年正月13日	津軽玄蕃政朝	〃	○				○	同年10月6日、北村・渡辺・進藤三家老御役御免
延宝8年4月13日	唐牛甚右衛門嘉治	譜代旧臣		○			○	江戸日記より
延宝9年正月11日	渡辺将監	重臣		○			○	国日記より
延宝9年正月11日	津軽大学	新参	○				○	国日記より。山鹿素行養子高恒、元禄10年7月御家老職召し放される
天和2年正月11日	津軽監物	重臣	○				○	元家老北村の次男、室素行次女、父親の室信義女
天和2年9月11日	進藤庄兵衛正次	重臣・姻戚		○			○	青森城代?
貞享2年正月26日	津軽親貞	一門(従兄弟)	○				○	信義の弟の子
貞享2年3月28日	進藤庄兵衛正次	重臣・姻戚		○			○	『奥富士物語』より。
貞享3年正月11日	戸沢矢五兵衛	譜代旧臣		○			○	江戸日記(貞享3年2月11日条)より。戸沢は父親と共に素行の門弟のようである。
貞享3年正月11日	磯谷新八	新参		○			○	江戸日記(貞享3年2月11日条)より。新八は磯谷十助の弟。
貞享3年12月10日	森岡主膳元長	一門・姻戚		○			○	
貞享3年	川越清左衛門房詮	新参		○			○	『奥富士物語』より。江戸日記(延宝8年正月16日条)によれば、田村の紹介により召し抱えられたようである。
貞享4年正月11日	田村藤太夫	新参	○				○	山鹿素行の甥、『奥富士物語』によれば、その後消息不明。
元禄3年11月11日	大道寺隼人繁清	一門(従兄弟)	○				○	為久の子
元禄3年	森岡主膳元長	一門・姻戚	○				○	天和2年5月家老御役御免後、再登用
元禄3年	大湯五左衛門	譜代		○			○	

表4

役職	人名	石高
家老	津軽玄蕃	2300
	津軽大学	2000
	津軽劔負	800
	田村藤太夫	700
城代	森岡主膳	1000
御手廻組頭	津軽外記	1000
	津軽左門	800
	大道寺隼人	1300
	岡勘解由	500
御馬廻頭	北村弥右衛門	1000
	高倉主計	800
	添田儀左衛門	500
	杉山勘左衛門	1000
	溝江半左衛門	500
	間宮求馬	500